NIE実践報告

1．タイトル：平和な世の中にするために、私たちは何をしなければならないか

2．学校名

岐阜県岐阜市立本荘中学校

3．実践者名（代表者名）

牧田　久

4．学年

第2学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合的な学習の時間・特別活動　　137人

6．単元（本時の学習課題）名

平和学習

7．目標（狙い）

「戦争は悲惨だ」という客観的な捉えにとどまるのではなく、「戦争は最大の人権侵害である」という意識に立ち、相手の立場になってものごとを考え行動していこうとする態度を育てる。

8．評価の視点

・資料(新聞・書籍など)や戦争体験者の話を通して、課題をもつことができる。
・調査等を通して、戦争の悲惨さや原因についての理解や感じ方を深めることができる。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

平和新聞作り[学級活動　5時間]　岐阜空襲から学ぶ[総合的な学習の時間　10時間]
テーマ学習[総合的な学習の時間　25時間]　　発表会[総合的な学習の時間　5時間]　合計45時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

(1)新聞の報道から平和について考える。平和新聞作り。(1時間)　※実際は夏・冬休みの課題
(2)報道の内容別に発表会(スピーチ)を行う。(4時間)
(3)岐阜空襲から戦争の悲惨さを学ぶ。(10時間)
(4)第二次世界大戦と戦時中の国民の生活について理解を深める。(5時間)
(5)テーマを決め戦争と平和についての理解を深める。(15時間)
(6)立志集会の中で平和学習学年発表会を行う。(5時間)
(7)修学旅行広島に向けて学習を深める。(5時間)
(留意点)
・新聞作りを通して、日本や自分たちの周りでどんなことがあったのか、興味をもたせ課題につなげる。
・戦争の被害を受けた人々の思いを受け止め、自分が調べてみたいテーマを決めさせる。
・課題解決方法を考え活動の見通しを立てさせる。
・体験活動や講演会を通して、また資料収集を通し課題解決に努めさせる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

新聞づくりを重ねることにより、平和に関わる新聞記事や報道番組に興味をもつ生徒が増えた。自分で調べたり、戦争体験者の話を聞いたりすることで「戦争は悲惨だ」という考えにとどまらず、戦争は最大の人権侵害で「正しい戦争などない」と考える生徒が増えた。

12．成果と課題

○2年生に行う平和学習が3年生の修学旅行も含めた大きな流れの中で行われることをオリエンテーションで理解させることができた。1年生の時から同じテーマで長期的に学習を行ってきた。長期的な取り組みに対して戸惑うこともなく、意識を継続させることができた。
○日常的に新聞を読む生徒が増え、時事問題にも関心を持つ生徒が増えた。
●社会や仲間との関わりの中から課題を見つけ、自分で情報を収集・選択し、課題を解決していく学習の流れには慣れてきた。生徒がより主体的に学習していく力がつくよう、個々に応じた指導援助を行いたい。